

あばさ

vol. 28
ワウラ浮遊地の
物語



カヤポ民族ラオーニ長老から
COVID-19パンデミックを生きる
全世界の人々へのメッセージ

[ご住所等ご変更ございましたらご連絡いただけますと幸いです。]

特定非営利活動法人

熱帯森林保護団体 Rainforest Foundation Japan

〒154-0012 東京都世田谷区駒沢1-8-20

TEL: 03-5481-1912 FAX: 03-5481-1913

MAIL: xingu@rainforestjp.com HP: www.rainforestjp.com

HOW TO HELP	年会費	大人	5,000円
		18歳以下	3,000円

年会費・寄付金振込先

口座名	熱帯森林保護団体
ゆうちょ銀行	郵便振替口座 00140-3-144187
三井住友銀行 東京中央支店	普通口座 7066247

※ 銀行振込の方は、必ずお名前とご連絡先を別途、
当団体までご一報をお願い致します。

■ 今、思うこと。

想像もしなかった事が起こってしまいました。それも一気に世界中で同時期に。去年アマゾンで大火災発生、それを体験し、いやな予感を感じました。急激な開発で森が加速度に減少。その原因は、私も含め物質文明至上主義の人間によるものだと思います。便利なものには必ずリスクが伴います。PCや携帯電話の普及は地の果てまで届いていますが、既にスマホが無ければ不安になる人もいるでしょう。そこから発する情報を鵜呑みにする危険もあります。あくまでも道具として使うのでしたら心配はいりませんが、その道具に大方の人は依存し、支配されているように映ります。何かが生じた場合、小さな箱からの情報より、個々が培ってきた体験や想像力、直感によって個人が判断し、行動することが大事なのではないでしょうか。今や情報が溢れ、垂れ流しの状態であるにも関わらず、人はキャパを超えた情報を頭脳に送り込み混乱し不安になり、それはまるで、この自然破壊のスピードと同じ現象が個々の頭の中で起きているように私は感じます。

コロナ禍は人類に警鐘を鳴らし、この嵐が去った後どのような選択肢で生きていくかが問われています。今迄と同じことを繰り返すとしたら、それは人類の絶滅への道につながるでしょう。人間が働くことを弛めざるを得ない現在、川は澄み、空気はきれいになり、動物たちは生き生きとしています。私は今こそ人々に問いたいです。「どこいくの?」と。

6月のイベント「どこいくの」展は、RFJと30年間協力関係にある、MWアトランティス・ファクトリーと共催で行います。開催時からSNS等で発信していきますので、ご来場はご無理なさらず、宜しくお願い致します。この時期にとお思いの方も多いと思いますが、アマゾンの森深きところからラオーニ、メガロンそして精霊さんたちも応援のエネルギーを既に送ってくれています。RFJ30周年も兼ね「アマゾンへ感謝の気持ち」を込めて未来への光を求め、アーティスティックな展示で、会場とシンガーの森がシンクロすると信じています。

(南 研子)

おはよう。こんにちは。
私の伝言をあなたたちに届けます。

私は生涯をかけて、あなたたちに私の懸念を伝えてきました。森が破壊され、森の生きものたちが命を奪われていると、何度も訴えてきました。私は森の精霊たちから、いま世界に蔓延する疫病について警告を受け取っていました。だから私はあなたたちに何度も訴えてきたのです。自然が抱く命のすべてを破壊し続けるならば、いつか悪いことが、我々自身の命すら奪われるようなことが起こるであろうと。

それを私は皆に警告し続けてきました。しかし世界は聞き入れなかった。自分たち自身の孫やひ孫らに何を残すべきかを、あなたたちは気にもかけませんでした。そしてすべてを破壊し続けました。疫病は現実になり、私たちはいま、それを目の当たりにしています。もしあなたたちが「明日」を考えないのであれば、また別の悪い出来事が起こるでしょう。多くの者がそれに気付きもしない。心配すらしらない。何が起こるかすら知らずにいる。まるで私だけが思い悩んでいるかのような気がしています。私は民族のリーダーとして、私の智慧をつくして、「明日」に胸を痛めています。

呪術師である私は夢の力を通して既にこの病のことを知っていました。私たちの祖先の魂は、すべての道しるべです。世界で何が起こるか私を助けて示してくれます。その示された現実には、いま私たちは直面しているのです。

あなたがたにお願いしたい。私のこの伝言の意味を深く考えてほしい。あなたたちの子や孫の世代のことを考えてほしい。自然を守るために闘い続けてきた、この私の闘いに連なってほしい。「自然を守る」というただひとつの言葉を、世界の全ての人から語ってほしいと願っています。あなたたちに問いかけたい。なぜこの疫病が生まれ、そして世界中に拡散したのか、と。答えは私が言いましょ。なぜなら、あなたたちが自然に手をかけたからです。そして自然は報復した。

もう一度言います。私は生涯をかけて、世界中に向かって、この懸念を訴え続けてきました。私の仲間である先住民族の中にも、私の語る言葉に耳を傾けない者も少なくはありません。しかし、いま、もう一度、強く訴えたいのです。いまこうして私が語るのを見て聞いている人は、私の伝言の意味を深く考えてほしいのです。より良い日々を見つめましょう。しかしそのためには、あなたたちの助けが必要です。自然を守るために、私に手を貸して下さい。

私が伝えたいのはそれだけです。全ての人に抱擁を送ります。我々の闘いを続けましょう。また会える日を。

カヤポ民族長老：ラオーニ・メトゥティレ
カポト・ジャリーナ先住民族保護区
メトゥティレ村にて(2020年4月)



(日本語訳・下郷 さとみ)



RFJ30年、活動のあゆみ

～34回現地視察、2000日以上滞在～

日系企業からの様々な機材寄贈。そして、講演会のご依頼や展示会等、沢山の方たちからの応援があったからこそ活動を続けていくことができました。ありがとうございます。

[1989年～2000年]

みんなの笑顔が嬉しかった。



[2001年～2010年]



ラオーニ来日



[2011年～2020年]



消防団員、養蜂士たち頑張っています！

Photo By Satomi Shimogo



主な活動内容 (詳しくはHPをご参照ください)

● 緊急医療支援及び水銀汚染調査

シンガー川上流レオナルドポストで全く薬がなく、外部から持ち込まれた感染症で死にいく人々に医薬品を送った。

● 識字教育

カヤボ族パウエリアと6集落に寺子屋風学校を建設、資材、教師を派遣した資金支援。

● 識字教育(教師育成)

インディオ教師育成のための学校をピアラスに建設。マトグロッソ州で初めてインディオの学校として公に承認された。

● 植林事業

不法侵入者による乱伐で減少した種5000本をカヤボエリアに植林した。

● 伝統文化継承事業

シンガー及びカヤボ族の習慣、文化をサンパウロで4回、日本でインディオ長老ラオーニを招き展示会を催した。

● 養蜂事業

シンガー上流域4部族の経済的自立促進を目的とし、蜂蜜の採取、及び外部に市場流通を確保、ブラジル社会との共生を図る。

● 消防団事業

森を火から守る目的で、インディオ消防団員の主体性を尊重し全てにかかる資金を提供している。